

## 2011年難民関連文献一覧

※ ここでは、日本語で執筆された文献を取り上げる。また、難民に関する全ての図書、雑誌を取り上げてはいない。

### 【図書】

- 移住労働者と連帯する全国ネットワーク・入管法対策会議・在留カードに異議あり! NGO実行委員会編『改定入管法——非正規滞在者・難民申請者のためのQ&A』移住労働者と連帯する全国ネットワーク・入管法対策会議・在留カードに異議あり! NGO実行委員会
- 金敬黙編著『NGOの源流をたずねて——難民救援から政策提言まで (JVCブックレット003)』めこん
- 小島廣光・平本健太編著『戦略的協働の本質——NPO、政府、企業の価値創造』有斐閣
- 小林甲一「第4章 外国人労働者の定住化と『多文化共生』の推進——地域社会政策の視点から」佐竹眞明編著『在日外国人と多文化共生——地域コミュニティの視点から』明石書店
- 笹川裕史「第4章 減びゆく姿/第2節 難民流入とその対策」『中華人民共和国誕生の社会史 (講談社選書メチエ510)』講談社
- 杉木明子「第1部 アフリカ大陸/第5章 サハラ以南アフリカの難民と定住化」小倉充夫・駒井洋編著『ブラック・ディアスポラ (叢書グローバル・ディアスポラ5)』明石書店
- カースルズ、S・ミラー、S.M.J./関根政美・関根薫監訳「第8章 国家と国際移民/第4節 難民と庇護」『国際移民の時代 (第4版)』名古屋大学出版会
- 飛内悠子『「国内避難民」とは誰か——スーダン共和国ハルツームにおけるククの人々の歴史・生活・アイデンティティ (Monograph series 8)』上智大学アジア文化研究所
- 中村安秀「第9章 難民と人道支援」中村安秀・河森正人編『グローバル人間学の世界 (大阪大学新世紀レクチャー)』大阪大学出版会
- 船尾章子「第2章 国際人権法の新しい潮流/第12節 難民の国際的保護の創始およびその展開一九二一—一九五一」秋月弘子・中谷和弘・西海真樹編『人類の道しるべとしての国際法——平和、自由、繁栄をめざして (横田洋三先生古稀記念論文集)』国際書院
- 松井健・名和克郎・野林厚志編『グローバリゼーションと〈生きる世界〉——生業からみた人類学的現在』昭和堂の以下の論文
- ・栗本英世「第3部 グローバリゼーションの蹄跡/第7章 内戦下で人びとはなにを食べていたのか——南部スーダンにおける生業、市場、人道援助」
- ・曾我亨「第4部 生業の「倒立」と〈生きる世界〉/第10章 国家を生き抜く拠点としての生業——牧畜民ガブラ・ミゴの難民戦術」
- 松岡佳奈子「第7章 難民の権利を守るための地域ネットワーク」勝間靖編著『アジアの人権ガバナンス (アジア地域統合講座専門研究シリーズ1)』勁草書房
- 吉本康子「第2章 世界の食を学ぶ4つの視点——交流と創造/第4節 移民・難民と食——阪神大震災後の神戸定住のベトナム人」河合利光編著『世界の食に学ぶ——国際化の比較食文化論』時潮社

### 【雑誌】

- 阿部吉雄「資料調査：上海のユダヤ人難民新聞 ——『Shanghai Jewish Chronicle』(1939年)の記事から」九州大学大学院言語文化研究院『言語文化論究』26号、155~170頁
- 阿部吉雄「上海のユダヤ人難民社会における職業教育」九州大学大学院言語文化研究院言語研究会『言語科学』46号、1~9頁
- 新垣修「現代政治思想における難民の受け入れ」日本平和学会『平和研究』36号、61~80頁
- 石井宏明「ミャンマー難民第三国定住プログラム——成功のカギは地域との融合」外交編集委員会『外交』10号、122~128頁
- 石井宏明・中山大輔・星野桃子ほか「東日本大震災と市民の支援 難民とともに取り組む被災地支援——難民支援協会(JAR)の活動」旬報社『賃金と社会保障』1552号、32~46頁
- 石川えり「第三国定住による難民の受け入れ」解放出版社『部落解放』646号、118~121頁
- 市川鄧康「『ドイツ難民』とホロコースト——危険な狂信的な国家主義」久留米大学比較文化研究所『比較文化研究』45号、1~14頁
- 市川正司「外国人・民族的少数者からの人権救済申立事件——市民の自由と『安全』に関する論点と難民保護を中心に」日本弁護士連合会『自由と正義』62巻5号、29~33頁
- 今野貴之・岸磨貴子・久保田賢一「教育開発プロジェクトにおける葛藤と介入——パレスチナ難民の学校における授業研究の活動システム分析より」日本教育工学会『日本教育工学会論文誌』35巻2号、99~108頁
- 岩田陽子「我が国の難民認定制度の現状と論点」国立国会図書館『調査と情報』710号、1~11頁
- 王渝「建国前中国における難民および失業者救済事業」関東学院大学経済学会『経済系——関東学院大学経済学会研究論集』246号、138~154頁
- 金井恵里可「行政判例研究(567・886)：法務大臣は出入国管理及び難民認定法49条の裁決に伴う在留特別許可を行う際に後発的難民該当性の判断をする義務を負うとされた事例 (平成19.8.31東京地方裁判所判決)」第一法規『自治研究』87巻3号、147~162頁
- 寄藤昂「国内避難民問題としての東日本大震災」おかもやま人権問題研究センター『人権21——調査と研究』212号、40~46頁
- 小泉康一「見過ごされてきた紛争の“源”——解決を先延ばしされた難民たち」大東文化大学『大東文化大学紀要 (社会科学)』49号、346~304頁
- 齋藤真哉「パレスチナにおける“文化的抵抗運動”——ジェニン難民キャンプのフリーダムシアターの取り組みから」東アジア社会教育研究編集委員会『東アジア社会教育研究』16号、226~241頁
- 櫻井美香「日本の難民の現状——難民支援協会の活動を中心に」日本社会精神医学会『日本社会精神医学会雑誌』20巻4号、442~451頁
- 渋谷敦志「国境に生きるビルマ難民の子どもたち」日本共産党中央委員会『前衛』868号、5~12頁、232頁

- 昔農英明「リベラルな移民国家における難民保護の質的変容——ドイツの事例から」移民政策学会編集委員会『移民政策研究』3号、71～84頁
- 土井香苗・ローズ、S.「『国境』を越えるためには何が必要か——移民・難民対談」岩波書店『世界』812号、248～257頁
- 中原篤史「コロンビア国内避難民支援に関する公共政策の課題——マグダレナ県を事例にして」大阪経大会『大阪経大論集』61巻6号、147～161頁
- 野田文隆「多文化・多民族化時代の精神医療とは——難民・移住者のメンタルヘルス」日本社会精神医学会『日本社会精神医学会雑誌』20巻4号、428～433頁
- 野田文隆「メンタルヘルスの広場——難民を診るといふこと」日本精神衛生会『心と社会』42巻2号、112～116頁
- 荻野剛史「わが国のNGO団体における難民定住支援」愛知みずほ大学『瀬木学園紀要』5号、13～19頁
- 廣瀬和子「『人権』の国際化、難民・国内避難民・無国籍者、人間の安全保障」学術の動向編集委員会『学術の動向——SCJフォーラム』16巻8号、89～92頁
- 宗田勝也「難民問題における『当事者性』に関する一考察」関係性の教育学会編集委員会『関係性の教育学』10巻1号、1～9頁
- 村田（澤柳）奈々子「バルカンの国民国家形成とギリシア人コミュニティの再編——テッサリアにおける難民定住と土地分配をめぐるギリシア議会の取り組み(1906～1907年)」日本中東学会『日本中東学会年報』26号、151～184頁
- 若松亮太「あるベトナム難民家族における犯罪の発生と影響」移民政策学会編集委員会『移民政策研究』3号、116～122頁
- 渡邊彰悟「難民認定手続の実務について」山梨学院大学『山梨学院ロー・ジャーナル』6号、51～83頁